静岡毎日新聞

十月十八日夕刊

日刊

定價　一箇月金拾錢　十箇月分前金壹圓　但郵税共一箇月金拾壹錢　十箇月分前金壹圓拾壹錢

發行所　常盤毎日新聞社

印刷所　常盤毎日印刷株式會社

歸還兵が團結して「忠靈奉仕」を志願

▽……靖國神社大祭を前に

▽……村内の遺家族を歴訪

錦村出身吉田部隊大平新二君、齋藤小太郎君、星滿君、桑原喜市君、赤津金治君、山野邊良助君、瀧草大次郎君、津赤佐四郎君の八名はこの程いづれも前線で赫々たる武勳をたて無事歸還されたが

靖國神社臨時大祭を前に慰問團を結成村内の遺家族を訪れ菜子折一箱宛を贈つた外今後は「不自由なこともあるでせうが何でも働くから息子と思つて使つて戴きたい」と申入れ感激せしめてゐる

大敷網の漁獲を開始

豊間村沿岸の大敷網はいづれも過般の大時化で根こそぎ押流されブリの盛漁期も何處へやら全部閉鎖したがこの程同村阿部孝次郎氏が有志の切なる復活運動に意を決し秋網より投網することになり準備中愈々整備したので今十八日から漁獲を開始した

落穂拾ひ

石城地方の學童達努力

石城地方各小學校では今年も應召農家の出圃へ制服の勤勞部隊を繰出し稻束の運搬や稔りの落穂拾ひを奉仕することになつた

空襲の報と共に天を仰いで見物

此態度方しからず

最も燈管に氣を配れ

見られた如く空襲と共に屋外に飛出して天を仰いで見物又燈火管制の不徹底から遮光が完全ならず些かに風呂敷の如き一時の間に合はせで實戰下を過ごす事あるが如きは勞しとせぬ所から、平素では管内各市町村を完全に護らうと光遮用具の普及を期し援助と便宜を與へることになつた

警防團幹部訓練打合會

平警察署幹部と市内警防團幹部の防空訓練打合せは今十八日午後三時から同署會議室で行はれた

平市では國策に協力聖戰の目的を貫徹せんと金の資源運動を行ひ頗る好成績を收めたが更に「一億一心百億貯蓄」に參加金部國記念として實却した代金で支那事變貯蓄債券を購入するか又は貯蓄するやう全市民に呼びかけることになつた

戰線の寄附

錦村出身源井勳一歩兵上等兵は目下中支戰線で活躍中だがこの程戰地から同村小學校へ教育資料として金五圓を送附して來た

公電來る

既報、讀賣新聞社の國民標語書方展覽會と支那事變及び歐洲動亂寫眞展覽會は明十九日から三日間平第三小學校講堂で開催されるが書方には平第三校の六年生鈴木光子さん高坂校高等科の伊豆榮子さんが入選してゐる

國民標語書方展入選

既報、讀賣新聞社の國民標語書方展覽會と支那事變及び歐洲動亂寫眞展覽會は明十九日から三日間平第三小學校講堂で開催されるが書方には平第三校の六年生鈴木光子さん高坂校高等科の伊豆榮子さんが入選してゐる

天氣豫報

今晩も明日も北の強い風、海上は第次に穏かになりませう

金を貸渡して債券を求めよ

平市が呼び掛く

△組合長内山治七、△副組合長大平勳、△理事谷平、△理事小野長壽、國井定藏、酒井直庶、武田常松、上遠野玉吉

一日戰死の

覺悟で出役

勞力不足の四倉築港

團員の奉仕作業

二ケ年繼續の工費十四萬圓で今春着手された四倉漁港第二期擴張工事（船溜場擴張）は勞働者の不足から一頓挫を來し作業は甚だしく遲延してゐるので新築四倉町長は四倉漁港の振興上遺憾な事だとて同町警防團に許つた結果四百餘の團員は勤勞奉仕よつて就役する事に決定又この人夫不足を聞き傳へた男女青年團員もそれ〳〵出役を申出既に青年團では一日戰死の覺悟で勞働に從事してゐるので工事はやうやく軌道に乘つて進捗してゐるがこの外隣村大浦、大野青年團員なども隣人愛から勤勞奉仕を申出でをり町當局を少なからず感激せしめてゐる

入營兵歡送迎に

新會旗一流以外を禁止

勿來町納税組合で

勿來町錦田中町組納税組合では赤津一氏及び有志の發起で積立金の中から六十圓を投じ會旗調製中のところこの程出來上がつたので今十八日國魂神社前で樹立式を擧行したが今後町内からの出征並に入營兵の歡送迎にはこの旗の外一切用ひないことを申合せた

宮川氏待遇

勿來町錦田國魂神社々司宮川富重氏はこの程奏任待遇に榮進した

歐洲動亂寫眞展

けふから東朝が主催

東京朝日新聞社の「歐洲動亂寫眞展覽會」は今十八日から二十日迄平第三小學校並に三町目なかや洋服店々頭に開催されるが

獨波兩軍の衝突からワルソー陷落を始めソ聯軍の波蘭進擊、さてはマヂノ、ジークフリード線における獨佛兩軍、佛戰線に續々參加する英軍、英海軍の海上封鎖、獨空軍の活躍防空に大童のロンドンやパリーの狀況等動亂の坪場と化した歐洲各國の生々しい姿を目のあたりみられたそれに第三次防空訓練を前に控えての折だけに好評を博してゐる

坪刈品評

植田の農會

植田町農會では今十八日午前九時から各大字毎に坪刈品評會を開催した

小名濱水道

低資貸付

許可の指令

小名濱上水道事業に對し政府預金部より廿二萬八千円の資金貸付を十六日付で許可された

制帽を寄附

小名濱町中町では二十四日からの防空訓練を前に本部直屬の部落團員に帽子を贈ることになり目下準備を進めてゐるが同町はさきに青年團員三十名に團服を寄贈したことのある奇特な町である

忠靈塔獻金

四倉町小學校の篠原校長以下全職員兒童及び水産商業學校、女子青年學校生徒達は第二與瑞寒公日に節約して釀出した金十七圓二錢をこの程忠靈顯彰資金として町役場に寄託した

田町体育行

平市田町青年團及び壯年團では二十日聯合して新井田浦へ「体育行」を催すが當日は海岸で地引や体育大會を行ふ筈

人事

平市人事

◎婚姻

△玉川村大字村城字辻前三長潮彩澤氏（三七）と擇槌小路二六菱沼貞子さん（二六）

◎死亡

△古鍛冶町八七鍋山としさん（五七）

表彰された銀行員

同盟會で

縣下銀行同盟會ではこの程郡山商工會議所で總會を開き永年勤續行員を表彰したが地方で表彰された行員は左の如くである

△農行平支店蛭田義一△磐東矢代正、△常陽平支店儀上重雄、△農行平支店管野信合では赤津一氏及び有志の發起で積立金の中から六十圓を投じ會旗調製中のところこの程出來上がつたので今十八日國魂神社前で樹立式を擧行したが今後町内からの出征並に入營兵の歡送迎にはこの旗の外一切用ひないことを申合せた

銃後

活動資金

玉川村在鄉軍人分會長渡邊二男氏は前線で赫々たる武勳をたてその程歸還されたが銃後の活動資金として左の如く寄附された

△二十圓銃後奉公會△十五圓國防婦人會△十

身は傷けど意氣益々旺ん

世紀の雄叫び——（九）

○○病院にて　平市出身　佐藤武君

（前略）顧り見るに鄉土の皆々樣に歡呼の聲に送られて上海吳淞上陸後は露營の夢も結ぶ暇も無く彼の金城湯地と頼む上海戰線に參加致して、首をぼつする「クリーク戰に」十字砲火の「トーチカ戰」に尺餘の泥水壁壕の中に數日を入りびたり遭戰苦闘、幾多の犧牲者を續出せしめ彼我の屍ふみ越えて攻撃に追撃に又追撃、友の屍に手向けの花すらなくやうな長驅致して謝家村戰に江陰城外の戰に江陰要塞に（江陰城は我が陸一番乘り）鎭江に、連戰連勝を博し有るも彼の曙昧にして築城なる敵は尚も長期抗爭を夢み頑強に抵抗なす除り我が忠勇無双の兵は、又攻撃追撃、雨後の泥路は愚か、濁流なんのその食を忘れて不眠不休敵を追ふ事連日連夜敵陣向ふに肉彈もつて、身は傷づけどもひるまず、一意皇國の爲め、幾多想像外の辛酸をなめつゝ奮戰に奮戰全支の大都南京を陷落せしめ、世界戰史に赫々たる武勳の一頁を綴り、皇軍の向ふ所敵無く、これ傷ひに銃後に、お勤めの皆々樣の御働きに依りて後顧の憂なかりし爲めと深く感謝の意を表する次第です、目下〇〇病院にて療養中でありますが殆んど全快近く再び戰線に起つ覺悟で勇躍して居ります。

小名濱材木商

組合を組織

小名濱、江名、玉川、泉二町二ケ村の材木商を一丸とする小名濱木材同業組合の創立總會はこの程開催されたが役員は左の如く決定された

△後五、三〇中等學生の時間、朗讀「饅頭の華」△後六、〇〇子供の時間「新支那旅行」對話、揚子江さかをのぼる」帝塚山コドモ會△後六、二五講演「事局下に於ける農村勞働事情と共同作業の實績」德田良太△後七、二〇國民歌謠一、戰死者を弔ふ歌二、戰友の英靈を祭の歌△後七、四〇（滿洲より）拓地に働く便話—龍爪拓地より中繼—△後八、〇〇ラヂオドラマ「隣り組」石黒磯也外△後八、四〇時局談話「米の話」農林次官、荷見安「燃料の話」燃料局長官、小島新一

ラヂオ

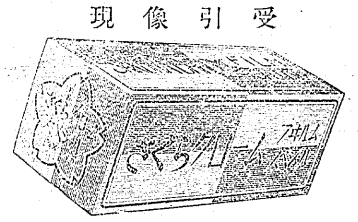
今晩の部

▼後六、〇〇子供の時間物語・探險英傑傳、伊能忠敬」直方一郎▼後六、二五講演一、鹿島神宮遷座祭に際して公爵近衛文麿二、鹿島神と民間信仰、中山太郎▼後七、三〇國民歌謠一防空青年の歌、柴野邁亥知詞、奥山貞吉曲、二、防空決死兵、稻野勝說詞、內田元曲、三、護れ我が空、佐藤惣之助詞、內田元曲、獨唱、水田紘次郎、作奏東京放送管絃樂團、指揮小田進吾▼後七、四〇講演「戰爭と土木」土木學會々長八田嘉明◎大陸現地報告の夕◎▼後八、〇〇一、大陸に轟く滿洲國少年義勇軍の報國」中村伸郎、淺野進二郎ほか

明日の部

▼前七、〇一朝の修養、開教者の述つた「道眞如法親玉、吉祥眞雄▼前一〇、〇〇世界一周機ニッポン號歸還實況—東京飛行場より中繼▼前一〇、二〇家庭燃料講座、ガスの經濟的な使ひ方、岩村榮次郎▼前一一、〇〇小學生の時間「私たちの理科」さつまいも、東京市櫻川小學校兒童▼後〇、〇五アコーデオン獨奏と合奏▼後二、〇〇小學生の時間「高學年」綴方發表會「躍國の英靈に捧ぐ」▼後三、〇〇婦人の時間「空襲下のボーランドを訪れて」酒井美枝子、井上美枝子▼後三、三〇教師の時間「大陸進出と青少年」甘粕外介▼後五、三〇中等學生の時間、朗讀「饅頭の華」▼後六、〇〇子供の時間「新支那旅行」對話、揚子江さかをのぼる」帝塚山コドモ會▼後六、二五講演「事局下に於ける農村勞働事情と共同作業の實績」德田良太▼後七、二〇國民歌謠一、戰死者を弔ふ歌二、戰友の英靈を祭の歌▼後七、四〇（滿洲より）拓地に働く便話—龍爪拓地より中繼—▼後八、〇〇ラヂオドラマ「隣り組」石黒磯也外▼後八、四〇時局談話「米の話」農林次官、荷見安「燃料の話」燃料局長官、小島新一

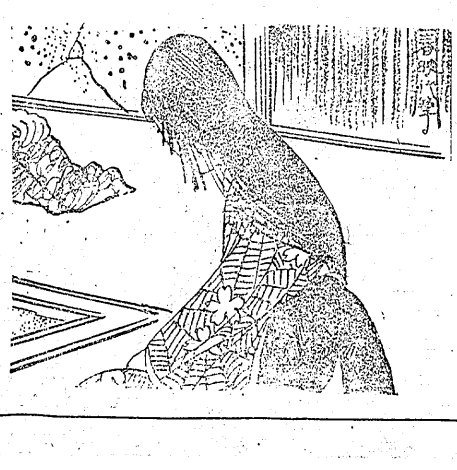
外科内臟外科　院長　安齋徹
X光線科
—新設—
産婦人科　醫學士　小松千秋
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四五七番

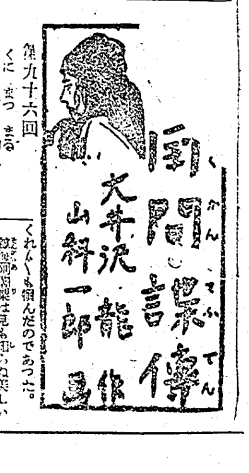
カメラと寫眞用品
受引現像

お命は
西村屋藥局寫眞部
電話平2・3番

内科　外科　一般
金成醫院
金成忠義
平市線田町
電話三五八番

電話開通
今般平局電話「四六九一」番を開設致しました何卒御利用の程願上ます。
石炭製造販賣　煉炭製造販賣
橋本善平商店
平出張所
平市田町銀座通

齒科口腔外科
レントゲン科
院長　東京齒科醫學士　原精一
電話三一番
平市土橋通
原齒科醫院





第九十六回　國松丸（一）

くにまつまる

國松丸といふのは、源義の嫡子で、母は熱田大宮司藤原季範の女、由良御前といつた。

義朝は、保元の亂に勝つて、都に權勢を振つてゐたが、平治の亂に敗れて、東國へ落ちて行く途中、尾張の國野間の内海で、長田忠致のために、湯殿で殺された。

義朝の子供は、三人あつた。

長男の悪源太義平は、飛騨に逃れたが、捕へられて、六條河原で斬られた。

三男の朝長は、義朝と一緒に、野間の内海で、深手を負つて、自害した。

次男の頼朝は、伊豆に流されて、蛭が小島に、三十年の間、流人生活をしてゐた。

四男の希義は、土佐に流されてゐたが、平家の討手のために、殺された。

五男の範頼は、蒲冠者と呼ばれて、後に頼朝の代官として、西國の戰に、大將軍となつた。

六男の義經は、牛若丸と呼ばれて、鞍馬山で、天狗から、兵法を習つたといふ、あの有名な人である。

七男の全成は、醫術を學んで、醫者になつた。

八男の成朝は、十六歳の時、父と一緒に、野間の内海で、深手を負つて、自害した。

九男の義圓は、叡山の僧侶になつた。

十男の阿野全保は、後に、謀叛の疑ひで、伊豆に流された。

十一男の禪師坊全玄は、後に、僧侶になつた。

十二男の坊門忠信は、後に、頼朝に、殺された。

十三男の能保は、後に、京都の守護職になつた。

十四男の廣澤三郎は、後に、僧侶になつた。

十五男の女子は、後に、一條能保の妻になつた。

十六男の女子は、後に、土御門通親の妻になつた。

十七男の女子は、後に、源範頼の妻になつた。

十八男の女子は、後に、平賀義信の妻になつた。

十九男の女子は、後に、安達盛長の妻になつた。

二十男の女子は、後に、足利義兼の妻になつた。

二十一男の女子は、後に、武田有義の妻になつた。

二十二男の女子は、後に、小山朝政の妻になつた。

二十三男の女子は、後に、結城朝光の妻になつた。

二十四男の女子は、後に、佐竹義宗の妻になつた。

二十五男の女子は、後に、北條時房の妻になつた。

二十六男の女子は、後に、三浦義村の妻になつた。

二十七男の女子は、後に、千葉常胤の妻になつた。

二十八男の女子は、後に、畠山重忠の妻になつた。

二十九男の女子は、後に、梶原景時の妻になつた。

三十男の女子は、後に、和田義盛の妻になつた。

三十一男の女子は、後に、比企能員の妻になつた。

三十二男の女子は、後に、宇都宮朝綱の妻になつた。

三十三男の女子は、後に、小笠原長清の妻になつた。

三十四男の女子は、後に、武田信義の妻になつた。

三十五男の女子は、後に、安田義定の妻になつた。

三十六男の女子は、後に、加藤景廉の妻になつた。

三十七男の女子は、後に、波多野義常の妻になつた。

三十八男の女子は、後に、伊東祐親の妻になつた。

三十九男の女子は、後に、工藤祐經の妻になつた。

四十男の女子は、後に、土肥實平の妻になつた。

四十一男の女子は、後に、土屋宗遠の妻になつた。

四十二男の女子は、後に、岡崎義實の妻になつた。

四十三男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

四十四男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

四十五男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

四十六男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

四十七男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

四十八男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

四十九男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

五十男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

五十一男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

五十二男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

五十三男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

五十四男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

五十五男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

五十六男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

五十七男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

五十八男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

五十九男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

六十男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

六十一男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

六十二男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

六十三男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

六十四男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

六十五男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

六十六男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

六十七男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

六十八男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

六十九男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

七十男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

七十一男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

七十二男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

七十三男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

七十四男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

七十五男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

七十六男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

七十七男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

七十八男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

七十九男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

八十男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

八十一男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

八十二男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

八十三男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

八十四男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

八十五男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

八十六男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

八十七男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

八十八男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

八十九男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

九十男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

九十一男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

九十二男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

九十三男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

九十四男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

九十五男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

九十六男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

九十七男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

九十八男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

九十九男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百一男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百二男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百三男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百四男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百五男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百六男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百七男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百八男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百九男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百十男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百十一男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百十二男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百十三男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百十四男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百十五男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百十六男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百十七男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百十八男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百十九男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百二十男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百二十一男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百二十二男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百二十三男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百二十四男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百二十五男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百二十六男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百二十七男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百二十八男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百二十九男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百三十男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百三十一男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百三十二男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百三十三男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百三十四男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百三十五男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百三十六男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百三十七男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百三十八男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百三十九男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百四十男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百四十一男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百四十二男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百四十三男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百四十四男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百四十五男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百四十六男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百四十七男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百四十八男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百四十九男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百五十男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百五十一男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百五十二男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百五十三男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百五十四男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百五十五男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百五十六男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百五十七男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百五十八男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百五十九男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百六十男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百六十一男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百六十二男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百六十三男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百六十四男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百六十五男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百六十六男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百六十七男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百六十八男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百六十九男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百七十男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百七十一男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百七十二男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百七十三男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百七十四男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百七十五男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百七十六男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百七十七男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百七十八男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百七十九男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百八十男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百八十一男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百八十二男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百八十三男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百八十四男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百八十五男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百八十六男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百八十七男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百八十八男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百八十九男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百九十男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百九十一男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百九十二男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

百九十三男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

百九十四男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

百九十五男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

百九十六男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

百九十七男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

百九十八男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

百九十九男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百一男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百二男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百三男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百四男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百五男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百六男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百七男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百八男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百九男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百十男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百十一男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百十二男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百十三男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百十四男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百十五男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百十六男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百十七男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百十八男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百十九男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百二十男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百二十一男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百二十二男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百二十三男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百二十四男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百二十五男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百二十六男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百二十七男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百二十八男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百二十九男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百三十男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百三十一男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百三十二男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百三十三男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百三十四男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百三十五男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百三十六男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百三十七男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百三十八男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百三十九男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百四十男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百四十一男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百四十二男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百四十三男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百四十四男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百四十五男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百四十六男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百四十七男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百四十八男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百四十九男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百五十男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百五十一男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百五十二男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百五十三男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百五十四男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百五十五男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百五十六男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百五十七男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百五十八男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百五十九男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百六十男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百六十一男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百六十二男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百六十三男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百六十四男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百六十五男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百六十六男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百六十七男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百六十八男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百六十九男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百七十男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百七十一男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百七十二男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百七十三男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百七十四男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百七十五男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百七十六男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百七十七男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百七十八男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百七十九男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百八十男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百八十一男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百八十二男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百八十三男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百八十四男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百八十五男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百八十六男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百八十七男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百八十八男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百八十九男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百九十男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百九十一男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百九十二男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

二百九十三男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

二百九十四男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

二百九十五男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

二百九十六男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

二百九十七男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

二百九十八男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

二百九十九男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百一男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百二男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百三男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百四男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百五男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百六男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百七男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百八男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百九男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百十男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百十一男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百十二男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百十三男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百十四男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百十五男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百十六男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百十七男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百十八男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百十九男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百二十男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百二十一男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百二十二男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百二十三男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百二十四男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百二十五男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百二十六男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百二十七男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百二十八男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百二十九男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百三十男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百三十一男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百三十二男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百三十三男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百三十四男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百三十五男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百三十六男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百三十七男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百三十八男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百三十九男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百四十男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百四十一男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百四十二男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百四十三男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百四十四男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百四十五男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百四十六男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百四十七男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百四十八男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百四十九男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百五十男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百五十一男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百五十二男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百五十三男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百五十四男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百五十五男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百五十六男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百五十七男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

三百五十八男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百五十九男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百六十男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百六十一男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百六十二男の女子は、後に、佐々木經高の妻になつた。

三百六十三男の女子は、後に、佐々木廣綱の妻になつた。

三百六十四男の女子は、後に、佐々木信綱の妻になつた。

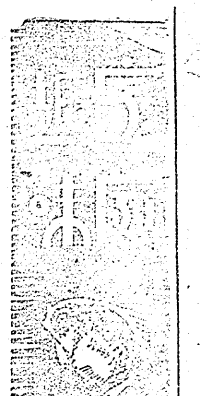
三百六十五男の女子は、後に、佐々木盛綱の妻になつた。

三百六十六男の女子は、後に、佐々木高綱の妻になつた。

三百六十七男の女子は、後に、佐々木秀義の妻になつた。

三百六十八男の女子は、後に、佐々木定綱の妻になつた。

三百六十九男の女子は、後



令嬢に白襷

大悟せい

婦人の職業戦線を
どこに求めるか。竹内現代女史が産業報国運動にあるお嬢さんの活躍を期待されたやうであるが、かうした意味の愛国心こそ彼女等に銃後の白たすきを送るべきだと思ふ。

皆見教育の為地と社会教育のために必要があり、玄米搗の精白にもよつぴりながら皆見や衛生もあるのだから一三ヶ月の講習で家庭保育所にでも起用できるであらうとすれば、養成費もあまりかゝらず一石二鳥となりはしまいか。

婦人の職業戦線への進出は、婦人の地位の強化を約束するものである。私たち婦人は世界の立場から、後方のうれひなく働けるやう、職場を整理し、婦人の職業戦線への進出を容易ならしめる一方、家庭婦人の銃後の守りを強化しなければならない